

施設からみた 文化度

高井 芳

0——施設からみた文化度

施設からみた文化度は厳密に考えればなりたたない。なんとなれば、施設が文化度を定めるのではなく、人の活動がそれを定めるからである。

ある都市に、ある面で特にすぐれた人がいたとしても、それがその人1人である場合、その都市の文化度が高いとはかならずしもいえない。つまり、その都市の文化度が高いという場合、その文化が一般的になっていなくてはならない。その都市の文化的活動が一般的になっているというのは、少なくとも施設面の裏づけがなくてはならない。したがって施設があるということは必要条件といえる。

施設があることは文化的活動をささえる必要条件といった意味で、大都市の施設について比較してみたい。

1——広い意味での文化的施設の量的比較について

施設面から文化をみる場合、いわゆる文化活動としての文化のみでなく、もっと広く見る必要があるであろう。都市活動をささえる基礎としての骨格的施設の整備状況は広い意味で文化度の尺度となる。このほか、生活水準、教育水準、医療水準、文化水準をささえる施設、さらに経済活動をささえる施設、娯楽施設も広い意味での文化水準をあらわすものといえる。

この稿では、対人口比、対世帯数比、対市域面積比、対市街地面積比で数量的比較をするための基礎数値を示すが、量的比較は厳密には質をあらわさない。道路の対市街地面積比がたとえ同じであっても、道路網の形態が異なれば、その効率は大きく違ってくる。東京、名古屋、京都、大阪は放射環状型あるいは基盤目状の道路網をもっており幹線道路はその道路網の一部に組込まれている。横浜は幹線道路に沿っている部分と、幹線道路より枝分れしている部分との複合体をなしている。神戸は幹線道路沿いに直線型道路網をもっている。これら形態による効率の違いについては、量的比較ではあらわせない。

文化施設について対人口比が同じでも、たとえば人口100万人について1カ所ある場合と、人口800万人について8カ所ある場合では、その個々の水準が同じだとしても、すでに質的に異なっているといえる。後者の選択の自由度はるかに多いからである。

施設の分布について、まとまって分布している方がよいものはまとまって分布し、各地区に分散して分布していた方がよいものは分散して分布している——かどうかによってその利用効率が異なる。さらに他種施設との位置関係も重要な要素である。このようにたんに施設の量のみを考えた場合でも、その形態、分布状況、量の違いによる質の違いがある。実際にはさらに個々の施設水準の違いをともなって都市の水準の大きな差異ができる。その上たとえば病院なら医療水準、音楽堂なら演奏内容、美術館なら展示内容の違いが加わって都市の水準にさらに大きな差異がでてくることになる。これらのことがあることを知った上で、施設のあるなし、あるとすればどれだけあるかを、いろいろの施設について、7大都市の比較数値が得られるものによって、横浜の位置づけを行なってみたい。

2——量的比較

さて、取り上げた項目は別表の通りである。表は対人口比、対世帯数比、対児童数比、対市域面積比、対市街地面積比等々については項目が多くなるので省略し基礎数値を主にしている。いわゆる文化施設のみでなく広い意味で文化をささえるものといった意味で、都市の骨組、住居、経済、医療、教育、娯楽、文化の各施設の中からえらんでみた。〈84ページ別表参照〉

施設量の面から横浜を位置づけると、広い意味での文化をささえている施設については、横浜は他都市とほぼ同等といえる。しかし、狭い意味での文化施設はあまりに少ない。

教育でいえば短期大学、大学が少なく、文化施設では映画館は他都市なみにあっても劇場がない、美術の創作活動に積極的な働きをする美術館がないなどである。都市の基礎をささえているもののなかでなしにはすまされない道路は他都市なみでも、精神的な面に又防災上重要な公園は非常に少ない。施設が量的に少なくとも一般的文化水準は高いという場合もあるわけであるが、実際は量的に少ないと、水準も低いことが多い。

この狭い意味での文化施設の少なさが文化活動の低調さになっ

てあらわれなければ幸いであるが、施設がないから活動が生まれない、活動がないから施設が出来ない、という悪循環をしているのではないかと思われる。

3——市街化率との関係

先に道路は他都市なみと述べたことに若干の疑問をもつ方がおられると思われるので補足したい。

今まで道路といえば対市域面積比、道路率、でもって何%といい、この数値で比較してきたが市域の中には市街地と非市街地があり7大都市はその比率が大きく異なっている。

道路率では市街地面積と市街地内道路面積を比べるのが実状を正しくあらわした数値となるが資料がえられない。そこで厳密さに欠けるが、2つの代りの指標を用いてみた。1つは人口1人当り道路面積、1つは道路率と市街化率との比である。これによれば市街化率の差異がある程度補正しうる。

1人当り道路面積、道路率・市街化率の比によれば、横浜は東京、大阪よりむしろよいといえる。これは市域の8~9割を市街化した都市と市域の1~3割しか市街化していない都市を比べるとき今までの道路率のみでは不十分なことを示している。

4——市街化速度との関係

今までの比較検討は静的にとらえた数値の比較であるが、動的にとらえてみる必要もある。

重要なものに市街地の増加速度がある。もちろん主たる原因は人口増加である。この点で横浜は昭和30年~35年人口増加率は20.3%、昭和35~40年人口増加率は30.0%であった。増加した市街地が既成市街地とほぼ同様の質をもっているとすれば、人口増加率と同程度の率で市街地が増加しているとみなければならぬ。

これら人口増加率、市街地増加率と同程度の率で施設を建設してきたか、こういった面から量的比較のみでも検討してみるならば、横浜はいろいろの面で下位にあるのではないかと思われる。

公共的施設については、人口及び市街地の増加に、財政力の増加がともなわなかったからである。

〈調査室〉

別表

		東京都	横浜市	名古屋市	京都市	大阪市	神戸市	北九州市
昭和30年国勢調査人口	人	6,969,104	1,143,687	1,336,780	1,219,226	2,547,316	986,344	868,032
昭和35年国勢調査人口	人	8,310,027	1,375,710	1,591,935	1,284,818	3,011,563	1,113,977	986,401
昭和40年国勢調査人口	人	8,893,094	1,788,915	1,935,430	1,365,007	3,156,222	1,216,666	1,042,388
昭和35年人口集中地区人口	人	8,108,157	1,116,591	1,465,237	1,167,957	2,973,635	1,005,961	798,942
昭和38年住民登録世帯数	世帯	2,682,710	427,290	461,437	376,517	881,213	317,708	270,288
市域面積	km ²	569.51	405.56	312.32	610.61	202.18	530.93	452.22
人口集中地区面積	S35km ²	466.6	99.9	130.6	82.3	186.5	57.1	78.8
道路延長	S39km	9,862	3,979	4,809	3,213	3,377	2,899	3,460
道路面積	S39m ²	62,353,616	16,641,325	30,953,185	15,098,954	21,603,577	16,088,541	—
上水道給水人口	S39	7,893,587	1,597,422	1,789,137	1,254,640	3,168,351	1,120,494	875,431
公共下水道既設区域面積	S39ha	13,719	4,000	8,063	2,376	10,021	1,252	903
住宅数	S38戸	2,025,000	367,000	400,000	281,000	696,000	274,000	222,000
小売店舗数	S38店	111,622	19,371	29,608	23,106	51,567	18,263	13,676
飲食店数	S38店	36,451	5,257	7,740	4,936	17,298	6,287	4,014
書籍小売店数	S38店	—	326	492	384	710	260	176
病院数	S39院	671	88	133	113	214	82	56
病床数	S39床	90,733	11,813	17,169	15,107	23,293	11,301	9,267
幼稚園	S39園	760	177	169	124	220	118	93
小学校	S39校	829	166	173	163	256	113	119
中学校	S39校	552	90	95	82	123	63	62
高等学校	S39校	346	55	58	44	113	50	41
短期大学	S39校	71	5	19	14	18	8	4
大学	S39校	79	5	20	18	12	8	6
映画館	S39館	475	72	121	55	225	62	80
演劇場・演芸場	S39場	48	1	10	—	29	15	16
博物館	S39館	35	7	1	14	7	1	1
美術館	S39館	20	0	3	15	2	2	2
動物園・植物園・水族館	S39園	7	2	2	5	2	5	2
図書館	S39館	55	3	7	5	5	1	5
昭和30年～35年人口増加数	人	1,340,923	232,023	255,155	65,592	464,247	127,633	118,369
昭和35年～40年人口増加数	人	583,067	413,205	343,495	80,189	144,659	102,689	55,987
昭和30年～35年人口増加率	%	19.2	20.3	19.1	5.4	18.2	12.9	13.6
昭和35年～40年人口増加率	%	7.0	30.0	21.6	6.2	4.8	9.2	5.7
市街化率	$\frac{\text{人口集中地区人口}}{\text{市域面積}}$	97.6	81.2	92.0	90.9	98.7	90.3	81.0
道路率	%	10.9	4.1	9.9	2.5	10.7	3.0	—
(道路面積：市域面積)								
1人当り道路面積	m ² /人	7.0	9.3	16.0	11.1	6.8	13.2	—
道路率：市街化率(面積)		0.13	0.17	0.19	0.19	0.12	0.29	—
住宅1戸当り平均延べ面積	S38m ²	53.67	52.96	65.90	74.34	49.75	53.03	55.53
1人当り平均量数	S38量/人	3.87	3.80	4.57	4.59	3.69	3.94	3.74
1人当り公園面積	S37m ² /人	—	1.28	2.54	1.70	1.01	2.13	2.56